

サイの御教え

一九六八年ダシヤラー祭連続講話⑦  
紙にインクを垂らす

「あなたは誰ですか？」と尋ねられれば、あなた方は皆、何年か前に誰かがあなたに付けた名前や、あなたが自分で付けた名前を答え、何生にもわたってあなたに与えられ、幾度となく生死を乗り越えてきた名前を答えません。その名前は、本当のあなたであるアートマという名前です。それはあなたが忘れている名前です。

アートマは三つの厚いベールに包まれています。それはマラ（不純物）、ヴィクシェーパ（投影）、アーヴァラナ（無知の覆い）というベールです。マラは、不道徳や悪や激情の汚れです。ヴィクシェーパは、真実を隠し、虚偽を魅力的で望ましいものに思わせる無知のベールです。アーヴァラナは、一時的なものを永遠なるものの上に重ね、個人という境界線を普遍なるものの上に重ねるベールです。さて、この三層に積もった垢あかを取り除いて

洗い流すには、どうすればいいでしょうか？ それには石鹼と水を使えば確実です。悔い改めという石鹼と、認知という水は、あらゆるマラを落とします。ヴィクシェーパは、五感が追い求める対象や外界に付属しているものから幸福を求めようとする原因となりますが、ウパーサナ（規則的に礼拝に打ち込むこと）によって、そして、万物の源であり支えであるものを崇拜することによって、変容します。万物のアートマは一つであるという、人間のアートマの本質を明らかにする英知グニヤムナを獲得することができ、アーヴァラナというベールをはぎ取ることもできます。したがって、マラは行為カルマによって取り払うことができ、ヴィクシェーパはバクティグニヤムナ（信愛／神への愛）によって、アーヴァラナは英知グニヤムナによって、取り払うことができます。そういうわけで、インドの聖仙たちは、求道者のために以上の三つの道を定めたのです。

敬虔な探求は、初めは毒のごとし、  
終わりは甘露のごとし

賞賛に値するいかなる達成にも、近道はありません。  
着実な努力だけが勝利を約束します。わずかな努力で、  
あるいはまったく努力なしで得られたことは、大喜びす  
るに値しません。ヤマ「禁戒」、ニヤマ「勸戒」、アーサ  
ナ（坐法）、プラーナーヤーマ「調息」、プラティヤー  
ハーラ（制感）、ダーラナー「集中」、ディヤーナ「瞑想  
／座禅」という修行の階梯は厳しいものですが、最後に  
は、ニルヴィカルパサマーディ（三昧の境地）の段階、  
すなわち、まったく乱されることのない、平等観にある  
状態に行き着きます。物理的な喜びを追求することは、  
「初めは甘露のごとし、終わりは毒のごとし」である一方、  
平静を追求することは、「初めは毒のごとし、終わりは  
甘露のごとし」です。

昔、一人の求道者が、守護のマントラを伝授して霊的  
な生活に入らせてくれないかと兄に懇願しました。する  
と兄はこう言いました。

「身内に教えるというのは難しいものだと相場が決  
まっている。ましてや弟に教えるとなると、さらに難し  
い。導師となって来られたシヴァ神ご自身であるダクシ  
ナムールティのもとに行きなさい。」

弟は、どうやってその導師を見つけたらよいかと尋ね  
ました。すると兄は言いました。

「すべての人、すべての物事を等しく見なす人、その  
人が、私の述べた導師だ。」

そこで、その若き弟はその導師を探し始めました。弟  
は、金の指輪をはめて、いくつもの隠遁所を訪ね歩きま  
した。弟は隠遁者たちに、指輪の金属は何であるかを尋  
ねました。ある者は金、ある者は真鍮、ある者は銅、  
ある者はブリキ、ある者は合金だと言いました。そのた  
め、弟は導師を探し続けました。その後、弟は、輝く目  
をした若い行者に出会いました。弟は、指輪は金かどう  
かを尋ねました。行者は「そうです」と答えました。弟  
が「真鍮ですか？」と尋ねると、行者は「そうです、そ  
れは真鍮です」と答えました。弟が何と尋ねても、行者  
は「そうです」と答えました。その行者は、いかなる違  
いも認識できなかったのです。それゆえ、弟は、目の前

にいる行者こそがダクシナムールティであるという結論に至りました。心の平静は、他でもなく、唯一性を悟った結果として訪れるのです。

あなたのハートの中心に  
シヴァムを受け入れなさい

サナトクマールは、神が目の前に現れたとき、厳しい苦行に没頭していました。神は、必要とするものを申し出るように、と述べました。すると、サナトクマールはこう言いました。

「今、あなたは私の客人です。私がしばらく暮らすこの場所にあなたはお越しになりました。ですから、何でも必要なものをおっしゃってください。私には、客人を礼遇し、客人の必要を満たす義務があります。」

ブラフマンを知ること、サナトクマールはブラフマンそのものになりました。それゆえ、神と対等に話すことができましたのです。「私はあなたです」というのが、サナトクマールがたどり着いた境地でした。サナトクマールがそう話したことは、驚くに値しません。神は常に存

在しています。「私」というのは、人が神から自分を切り離れた後に生まれるものです。ですから、ジーヴィ（個々の魂）の誕生に伴って、デーヴァ（神）という観念も心に生まれなければなりません。それが安全と成功のしるしです。あなたのハートの中心にシヴァム（神）を受け入れなさい。そうすれば、あなたは不滅となります。神のいない肉体であるシャヴァム（屍）を受け入れるなら、あなたは滅びます。

靈性の師は、その根本的な教えを強調しなければなりません。靈性の師は、学校の教師の中でも体育の教師のようになるべきです。他の教師は、教室へ入り、教え、出て行きます。歴史の教師は、授業を進め、出て行きます。科学の教師も同じです。体育の教師は、生徒たちが同じことをできるように、自ら生徒の前に立ち、手を動かさなければなりません。体育の教師は、生徒に望むのと同じ回数と速さで、自分の体を曲げ伸ばししなければなりません。グルはブラフマンであらねばなりません。そうであれば、他の人たちが神の英知へと導くことができず、グルは、単に唯一者の名前を認識しているだけでなく、唯一者と名づけられた者を認識していなければなり

ません。

富は永続する幸福を与えられない

生活水準を上げたいという欲は、決して癒されることのない渇きです。それは、五感の喜びを際限なく追求すること、欲しいものが増えること、心配事にもっと深く巻き込まれることへとつながります。豊かさは、命取りになる誘惑です。お金を得たいという痒みをむち打ちで止めることはできません。

あるとき、ラクシュミー（富の女神）とナーラーヤナ（ヴィシュヌ神／ラクシュミー女神の夫）が、どのような者が人類のハートの中で一番の存在であるかについて口論しました。二神は実際に試して解決することになりました。

ラクシュミー女神は、霊性の師となって人類のもとに降臨しました。人々がラクシュミーの足を洗い、ラクシュミーに礼拝していたとき、信徒たちが使っていた皿や器が金の器に変わりました！そのため、ラクシュミーはいたる所で歓迎され、恐ろしいほどに信徒たちが集まり、

真鍮や銅やアルミの皿や器が、そこいら中に山と積まれました！

一方、ナーラーヤナ神は、聖典の講釈師となって降臨し、聖仙たちによって示された幸福と歓喜への道を、大勢の人に説いていました。ナーラーヤナの信徒たちは、ラクシュミーが金属を金に変えたという話を聞くと、自分たちのところにもラクシュミーに来てほしいと思い、ナーラーヤナの教えたことにはほとんど注意を傾けなくなりしました。ラクシュミーがやって来ると、ナーラーヤナは町や村から追い出されました。というのも、ナーラーヤナの説法は、利益をもたらすラクシュミーへの礼拝の会を妨げる内容だったからです。

神への信仰心のない人が説く、心をそそる話に耳を傾けてはなりません。彼らは、常道でない手段によって突如として富が飛び込んでくる、という思惑をあなたの前にもちらつかせます。しかし彼らは、富は幸福をもたらすことはできない、永続する満ちたりた真の幸福をもたらすことはできない、ということはあなたに言いません。彼らの主張は見せかけだけで、ずる賢いものです。彼らは伝統的なもの、真実のものを嘲笑します。

どの儀式にも意義や意味がある

ヴェーンカタギリに、規則正しくサンディヤー（夜明け、正午、日暮れに行う礼拝の儀式）をしている正統派のブラフミンがいました。サンディヤーの儀式では、聖水を小さなスプーンで三回ずつ、何度も飲まなければなりません。それを見ていた息子は笑って言いました。

「なぜそう何度も、ちびちび飲まなければならぬの？全部一気に水を飲めば、簡単に早く済むのに。」  
父は黙ったままでした。その後、息子が宿題をしたとき、息子が数分ごとにペンをインクに浸けているのを見て、父は笑って言いました。

「そんなことしないで、インクを直接ビンから紙に垂らしたらどうだい？ 一行書くと字が細くなって、そのたびにペンをインクに浸してインクの滴を紙に付けるような煩わしいことを、どうしてやっているのかね？」

どの儀式にも意義や意味があります。それを信じてそのとおりに行っている人に任せるのが、最善です。

自らを救うには三つの道があるのみです。それはブラヴリッティ（外に向かうこと）（行為や外的な活動）の道、ニヴリッティ（内に向かうこと）（放棄、内なる静けさ）の道、プラパッティ（全託）の道です。プラヴリッティは、本能や衝動を昇華させる方法です。ニヴリッティは、五感やエゴの渴望を抑える方法です。プラパッティは、五感、本能、衝動、知性、感情を、全知全能の神を賛美するために利用する方法です。行いなさい、そして、それを捧げなさい。働きなさい、そしてそれを礼拝としなさい。計画しなさい、そして、それを遵守しなさい。ただし、結果を心配しないことです。それが霊的成功の秘訣です。

一九六八年九月三十日

ダシャラー祭

ブラシャーンティニラヤムにて

Satyā Sai Speaks Vol.8 C39